

新春雑感

大森 海太

去年の暮は西高東低の冬型天候で、太平洋岸は雨が降らずカラカラの日々。

晴れわたった寒空に黄色い銀杏の葉が舞い散り、葉の落ちた柿の木には実だけが残っている。渋柿は鳥も喰わないのか。早い日の暮れはこの世の終わりを連想させる。

ところが年が明けて七草粥が過ぎるころになると、気のせいか明るくなって、どことなく春の気配が感じられる。

そうだ、もうすぐ春がやってくる。それにオレはこの春八十歳になるんだ。いやはや、自分が八十になるなんて信じられないことだ。昔ならとっくにあちらの方に行ってしまったのに。

それはそうとして、昨年も国の内外で色んな出来事があった。新聞やテレビで見る以上のことは知りようもないが、最近フエイクニュースは偽情報も多いとかでどこまでがホントなのかよく分からない。

ロシアやイスラエルによる戦争は収まらないし、アメリカでは寅さん再登場でどうなることか、ヨーロッパ各国の政変に加えて年末には韓国やシリアでの予期せぬ事態、一方国内では政治とカネの問題で時間を費やすばかりだ。

考えてみれば人間は賢いようで愚かなもの。ミサイルやドローンを飛ばしたり、村を破壊して多くの人の命を奪ったり、AIだなんだと技術の進歩には目を見張るが、その上に立つ人間は自国の主張や領土、或いは己おのれの権勢欲に駆られて人の道に外れたふるまいに走る。

いったいこの先、この世はどうなっちゃうんだろう。イッパイ飲みながらアレコレ考えてみるのだが、難しくてよく分からない。マ、爺さんが心配してみても、どうなるものでもないけれど。

そんなことより我が身は八十になって、もはや順番待ちに入っているのだ。

尤もあちらからのお呼び出しは気まぐれで、必ずしも年齢順とは限らないので、いつのことやら見当もつかず、さりとて今さら世の中の役に立つとも思えない。

まあウツウツしないで元気なうちは好きなことでもしながら、春の到来を待つこととしよう。他愛もない雑感ですが、今年もよろしくお願いします。